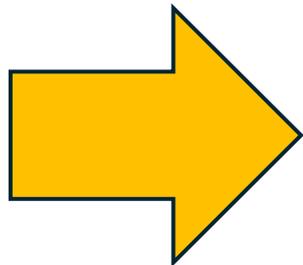


自由研究（全6ページ）の一部をご紹介します

ヘアドネーションと

アンコンシャスバイアス について



1年の夏
のはじめに

4年の夏 ついに

ヘアドネーションとアンコシャスバイアスについて

ぼくは小学1年生のときから「ヘアドネーション」のために髪をのばしていました。今年の6月に目標の長さだった31cm以上になったので髪を切ったため、夏休みを利用してこの経験をふり返ってみようと思います。

また、髪をのばしたことで「アンコシャスバイアス」を知りました。夏休みにアンコンシャスバイアスを体験するイベントに参加したので、その感想をまとめたいと思います。

1. ヘアドネーションとは

ヘアドネーションは、いろいろな理由で髪に悩みがある子どもたちに、きふされた髪の毛を使ってウィッグ（かつら）を作り、むしろうで提供するまでを行う活動のことです。髪の毛は31cm以上の長さからきふすることができます。

2. ヘアドネーションをしようと思ったきっかけ

小学1年生の時に、小学生の男の子がヘアドネーションをしている記事を読んだことがきっかけです。病気の人がかわいそうと思い、ぼくもやってみようと思いました。

3. 実際にやってみて感じたこと

(1)良かったこと・うれしかったこと

- ・髪が長い男の子は少ないので、覚えてもらいやすかった。
- ・ヘアドネーションするってかっこいいねって言われてうれしかった。
- ・友達が「髪をのばすのってかっこいいな。ぼくものぼそうかな。」と言ってくれたことがうれしかった。
- ・友達が「髪さらさらだね」と言ってくれたことがうれしかった。

(2)大変だったこと・いやな気持ちになったこと

- ・サッカーしていて、髪の毛が顔にあたること。
- ・夏は暑い。
- ・髪の毛をドライヤーでかわかすのに時間がかかること。
- ・髪の毛がからまると、とかすとき痛いこと。
- ・「女を目指しているの」と言われること。
- ・髪が長くても、切って短くなってからも、髪を結んでいると知らない人から「おねえちゃん」と呼ばれること。

(3)実際に切ってみて感じたこと

- ・切ったあとは、すっきりした。涼しくなった。
- ・やりきった達成感があった。
- ・髪がかんたんにかわくようになった。

(4)そのほかに感じたこと

- ・どうして髪が長いだけで「女」と決めつけるのだろうと思いました。小学校では、ぼくの髪が長いことを「女みたい」「女になりたいの？」などとからかう子が何人もいました。テレビにも、髪が長い男の人が出ているのに、なんでだろうと思いました。サッカースクールでは、いろいろな髪型の子がいて、男の子、女の子関係なく、自分の好きな髪型をしているから、長いことをからかわれることはありませんでした。
- ・ぼくの学年では、一番初めに髪を伸ばしはじめた男の子がぼくでした。2番目に伸ばしはじめた子より、一番初めのぼくの方がたくさんからかわれたので、一番目の人の方が勇気があるなと思いました。

4. アンコシャスバイアスについて

髪を伸ばしているとき、見た目から「女の子」と間違われることが何度もありました。人は、何かを見たり、聞いたり、感じたりしたときに、「無意識に“こうだ”と思い込むこと」があります。これを、アンコンシャスバイアス（アンコン）といいます。日本語では、「無意識の思い込み」などとも表現されているそうです。ぼくのように「髪が長いから女の子」と見た目で性別を判断されることもアンコンの1つです。

夏休みにアンコンを体験するイベントに参加しました。「ハットニヤール博士の研究所」というイベントです。イベントに参加して、ぼくの中にもアンコンがあることに気づきました。これまで何度も女の子に間違われて、イヤな気持ちになったので、ぼくは見た目で決めつけないつもりでいたけど、無意識のうちに見た目で判断していました。

5. まとめ

人それぞれ好きな髪型があるのに、みんながそれを笑ったりするのがおかしいと思いました。みんなが笑わなくなったら、かつらが必要になる子も少なくなるかもしれないと思いました。みんなそれぞれ、自分の好きな髪型ができる世の中になったらいいなと思いました。

あと、名前を呼ぶときは、見た目で「ちゃん」「くん」と呼ばずに、「さん」で呼ぶといいなと思いました。名前がわからなかったら「おにいちゃん」「おねえちゃん」ではなく、「あなた」と呼ぶのがいいなと思いました。ぼくは髪を切った後も「おねえちゃん」と呼ばれることが多く、すこしイヤな気持ちになったからです。

男とか女とか関係なく、みんなが自由に暮らせる世界になってほしいです。